

# 長野県革新懇ニュース

2018年4月号  
発行日4月10日  
会費 2,000円  
購読料 3,000円(送料込)  
振替 0510-3-15971



発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会  
(長野県革新懇) 発行人: 山口光昭 編集長: 高村裕  
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内  
TEL: 026-234-1231 FAX: 026-234-2219 メール: mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 窪島誠一郎さんと堀井正子さんの対談
- 2面 1面続き
- 3面 県議会が「核兵器禁止条約批准を求める意見書」決議  
近現代信州の歴史回廊
- 4面 本の紹介『追いかけた77の記憶』  
映画評論『一陽来復』  
読者のこえ・各地の動き、漢字パズル

長野県革新懇

検索

## 随筆バトンタッチ 対談



窪島誠一郎さん  
(『無言館』館主)



堀井正子さん  
(日本文学研究者)



山口: 本日は堀井さん、窪島さん、お忙しいところ、お時間をとっていただきありがとうございます。堀井さんは、3年にわたって文芸評論や時々の時事を含めた『温故知新』を連載していただき、本当にありがとうございます。評判が大変良く、好企画だという声をたくさんいただきました。長いことお付き合いいただけて、本当に感謝しています。それを今度、窪島さんに引き継いでいただけないかというので、大変ありがたいお話を承ねてお二方にいろいろお話をさせていただこうと思います。特にテーマは決めてありませんので、ご自由にお話してください。それではよろしくお願いたします。

### 日常の言葉で 文学を語りたい

窪島: 今回、革新懇からお話をいただいたんですが、『温故知新』を読んでいて、先ほど何気なく口走った「これは勝ち目ないな」といった立ち位置を感じたんです。所謂高みから文芸評論をなされるんじゃないかと、ちょっと斜め前方というか、そういうところに視点があるなあ、とずっと読んでいて感じてましたね。堀井さんは漱石なんかには強いんですね。

堀井: 直近では、新幹線の大宮駅でお見かけしたことがありますが、一瞬でしたから気がつかれなかったと思います。もう少し前は、松本猛さんが知事選に出られた時に一緒にになりました。

窪島: そうでしたか。僕は高野登君が市長選の時に横にお座りになっていて、ああこの方が堀井さんだなんて思ってたんですが・・・。

堀井: いずれにせよ、僕は平たく言えば、野党の応援をするんです。でも現在、7打数ノーヒットなんです。応援すると必ず負けるんです。と言うよりは、勝ち目のない候補者を応援するとか言いようがない。できれば8打数目は、せめて内野安打を狙っているんですが・・・。

窪島: 「七転び八起き」と言うから、今度は大丈夫じゃないですか。(笑い)

窪島: 今回、革新懇からお話をいただいたんですが、『温故知新』を読んでいて、先ほど何気なく口走った「これは勝ち目ないな」といった立ち位置を感じたんです。所謂高みから文芸評論をなされるんじゃないかと、ちょっと斜め前方というか、そういうところに視点があるなあ、とずっと読んでいて感じてましたね。堀井さんは漱石なんかには強いんですね。

窪島: 今度、窪島さんに引き継いでいただけないかというので、大変ありがたいお話を承ねてお二方にいろいろお話をさせていただこうと思います。特にテーマは決めてありませんので、ご自由にお話してください。それではよろしくお願いたします。

### 原風景は焼け野原の キャンディー

窪島: そうです。僕を2歳で預かった養父母は靴の修理屋で、明治大学和泉校舎の前で学生さんの靴を修理していたんです。昭和19年の暮れに戦争が激しくなってきた、たまたま父親の将棋仲間の鶴岡吉松さんという方が、石巻の渡波という村で洋服店をしていた縁で、そこに疎開したんです。そして帰って来たらもう、草の根1本生えてない。一面の赤茶けた焼け野原、あれが原風景でした。そこに自転車でアイスキャンディー売りに来たおじさんがいて、父親がキャンディーを買ってくれて、それをしゃがんでしゃぶっているうちにポロッと落ちちゃって、それを母親がパッと拾って口に入れてしゃぶり直して、また僕の口に入れてくれてね。お前が見た一番最初の風景は何かと問われたらあそこですね。

堀井: でもキャンディーよく

窪島: そうです。僕を2歳で預かった養父母は靴の修理屋で、明治大学和泉校舎の前で学生さんの靴を修理していたんです。昭和19年の暮れに戦争が激しくなってきた、たまたま父親の将棋仲間の鶴岡吉松さんという方が、石巻の渡波という村で洋服店をしていた縁で、そこに疎開したんです。そして帰って来たらもう、草の根1本生えてない。一面の赤茶けた焼け野原、あれが原風景でした。そこに自転車でアイスキャンディー売りに来たおじさんがいて、父親がキャンディーを買ってくれて、それをしゃがんでしゃぶっているうちにポロッと落ちちゃって、それを母親がパッと拾って口に入れてしゃぶり直して、また僕の口に入れてくれてね。お前が見た一番最初の風景は何かと問われたらあそこですね。

堀井: でもキャンディーよく

【2面に続く】